

◎デパス錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 エチゾラム etizolam 【分類】 精神安定剤

【単位】 ▼0.25mg・◎0.5mg・▼1mg/錠

【常用量】 0.5～3mg/日 ■高齢者には1.5mg/日を上限

【用法】 ■神経症・うつ病：3mg/日分3 ■心身症・頸椎症・腰痛症・筋収縮性頭痛：1.5mg/日分3 ■睡眠障害：1～3mg 眠前

【透析患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【その他の報告】 作用が強くあらわれるおそれがあるため慎重投与 (1)

【特徴】 チェノジアゼピン系精神安定剤。ベンゾジアゼピンに比較して全般に薬理活性が強化され、強力な抗不安作用のほか鎮静・催眠作用、抗うつ作用、筋緊張緩解作用も合わせ持つ。筋緊張緩和作用があるので高齢者の転倒に注意。

【主な副作用・毒性】 依存性、呼吸抑制、炭酸ガスナルコーシス、悪性症候群、横紋筋融解症、間質性肺炎、肝機能障害、黄疸、言語障害、倦怠感、刺激興奮、女性化乳房、錯乱、排尿障害、鼻閉、浮腫など

【安全性に関する情報】 急性狭隅角緑内障、重症筋無力症に禁忌 (1) CYP2C9 の EM に比べて PM 患者で単回投与時の AUC が 1.6 倍に上昇、半減期が 1.4 倍に延長し、作用が持続する可能性 (Fukasawa T, et al: Eur J Clin Pharmacol 61: 791-5, 2005 PMID: 16261363)

【Ka】 0.85±0.12/hr (1)

【F】 不明 (1)

【tmax】 約 3hr (1)

【代謝】 CYP2C9, 3A4 で代謝される (1) 8 位エチル基の α 水酸化体 (M-III) は CYP2C9 で、1 位メチル基の水酸化体 (M-VI) は CYP3A4 で生成する (1) M-III には活性が認められる (1) CYP2C19 の PM で AUC 増大、半減期延長 (Fukasawa T, et al: Eur J Clin Pharmacol 61: 791-5, 2005 PMID: 16261363)

【排泄】 尿中回収率 53% [50hr まで] (1) 尿中排泄物は主に M-III およびそのグルクロン酸抱合体、M-VI のグルクロン酸抱合体で未変化体はわずか (1)

【CL】 資料なし (1) 計算上 CL/F=7L/hr (1)

【t1/2】 約 6hr (1) M-II : 16hr, M-VI : 8hr (1)

【蛋白結合率】 93% (1)

【Vd】 資料なし (1)

【MW】 342.85

【透析性】 蛋白結合率が高いため除去されにくいと思われる (5) 不明 (1)

【TDM のポイント】 TDM の対象にならない 【O/W 係数】 354 [1-オクタノール水系, pH7] (1) 【pKa】 2.6 (1)

【相互作用】 中枢神経抑制剤と併用注意 (1) カルバマゼピン併用により Cmax, AUC 低下、半減期短縮 (Kondo S, et al: Eur J Clin Pharmacol 61: 185-8, 2005 PMID: 15776275)

【更新日】 20171106

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。